


# 『ベンチにて』 寸評

- ・時 (=とき) をときほぐしていく小品
- ・テンポ感覚をあいまいにするさまざまなしかけが奏功
- ・m.8-9 左手さいごのスタッカートがドラマを生む
- ・弱音にとどまったすずやかな音づかいがこちよい
- ・「風薫る夏の朝」とか、あるていど詩的なイメージを与えたらどうだろう

## 完成度をさらに上げるために

- ・フェルマータは全ての五線につけよう (今回は下段)
- ・ペダルで和音をにごらせるところと通常 of 澄ませるところの対比があっている ぜんぶにごらせるのはイマイチ
- ・m.12 b.1 記譜 
- ・m.8 特にペダルの位置がボタンでる
- ・m.12 b.4-m.13 b.2 左手 和音上レ#ではなくミbの方がよい  
右手をミにす
- ・m.16 b.2 左手 意図してだろうが盛大ににごる
- ・m.1, 10 タイではなくそれぞれ二分音符、付点二分音符にするとみやすい

m.=measure 小節番号のことです。  
b.=beat 拍のことです。

たいへんよくできました。

持磨 勉